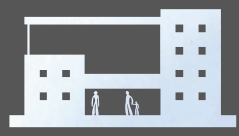


# ガジュマルの木陰のような新しい市庁舎

— THE NEW NAHA CITY HALL —



那覇市民の新たなシンボル 急速に移り変わる沖縄、その中心地である那覇の街に新しい庁舎が誕生する。市民と一緒に作る、つくり続ける庁舎

## ■那覇市新庁舎に対する基本的な考え方

日本の南西端の島嶼地域に位置する沖縄は、日本の他地域と比べて特異な気候風土・歴史・文化をもつ。かつて繁栄した琉球王国、薩摩侵攻・琉球処分・沖縄戦・米軍統治・本土復帰など、めまぐるしく時代の波に翻弄された。そして、建造物や街など形あるものは全て沖縄戦で失い、戦後経済復興によって日本本土化が進む中で、「沖縄らしさ」が失われ、さまざまな環境・都市問題が起きている。この新庁舎の建設は、「那覇市新庁舎基本構想・基本計画」にある庁舎としての一般的な与条件とともに、次の基本的考え方を包含することが大切であると考える。

1. 新しい沖縄の「**建築文化**」を示す庁舎
2. 市民参加による「**自治**」の拠点としての庁舎
3. 沖縄を再生する「**共生**」の拠点としての庁舎
4. 沖縄を「**発信**」する拠点としての庁舎

つまり、求められているものは、行政の市民サービスをする効率的な市庁舎（**CITY OFFICE**）だけでなく、さまざまな人々が集い、語り合える「**ゆいまーる**」の場をもうけ、子孫に残す夢を語り、美しい沖縄を再生するための拠点となる市庁舎（**CITY HALL**）をみんなで協力してつくり続けることだ。

### ○新庁舎のイメージ

新庁舎に求められている新しい建築空間とは、大きな「**がじゅまるの木**」のような建物だと考える。しっかり地域に根をおろし、台風にも耐え、広い枝とたくさんの緑の葉で強い陽射を遮えぎり、風が通り抜け、木陰のある心地よい空間・環境で、いつもそこに多くの人々が安心安全と未来を求めて集う。そしてそこは従来の建築にない多様性と可変性があり、成長する空間でもある。

## ■業務の実施方針

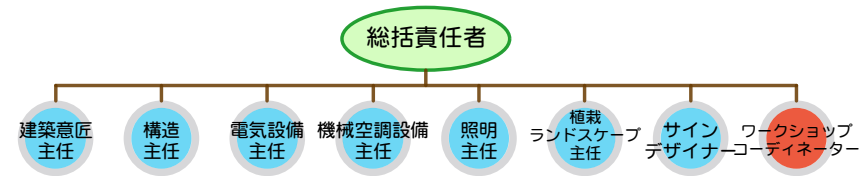
那覇市新庁舎は那覇市民の住民サービスの拠点であると同時に沖縄の将来の方向性を示す重要施設となる。実現にむけて、沖縄の気候風土を熟知した専門技術者と最新技術をもつ専門技術者が一体となり、技術力・組織力をもって歴史に残るすばらしい庁舎をめざす。

### ○取り組み体制

私たちのグループは組織事務所でないため、設計の各分野は協力事務所の専門技術者に委ねる。この主要メンバーは、これまでも県内の大きな公共重要施設の設計・監理を協働した経験をもつ。管理技術者は総括として、先頭に立って設計・監理をまとめ、品質・コスト・スケジュール管理業務を効率的に推進した。今回、設計への住民参加を考慮し、ワークショップのコーディネーターとして経験豊かな学識経験者が加わる。

### ○設計チームの特徴

沖縄で実績を持つ沖縄出身の専門技術者と、沖縄と本土との相違を熟知しながら東京で高度な最新技術を有する専門技術者の緊張感あるコラボレーションにより新庁舎の設計を進める。また、設計・建設途中の行政・市民とのワークショップにも共に参加し、よりよい設計や運営を求めてフレキシブルな設計態度で臨む。そして、これまでの経験を生かし、住民のいかなる見解も迎え入れながら、手を抜かずに完璧な建築をつくりあげる気構えで業務にあたる。



### ○ユーザビリティの高い庁舎をめざす

この市庁舎のユーザーは那覇市民・周辺住民・老若男女・身障者・市職員・市議・外国人・観光客など様々だ。そのようなユーザーの声に耳を傾け、いつでも訪れ利用しやすい市庁舎をつくるための体制を整え、実現する。わかりやすいゾーニングやオープンプランとし、視覚的にも空間的にも半戸外や外部に連続した心地よい空間を提供する。大人数が集える市庁前広場や、屋上庭園をつくり、街と連続させる。→人に優しく、市民協働の場となり、効率的な庁舎

### ○サステナブルで合理的な庁舎をめざす

強固で長寿命、しかも単純明快な架構システムでPCa等の効率的な工法を前提とした建築とする。また、多様な模様替や拡張にも対応できる構造システムとする。免震構造なども検討し災害に備え、省エネ、維持経費削減や設備システム更新の容易な建築とする。また、沖縄特有の塩害に強く、影響を受けにくい資材や工法を選ぶ。→将来の変化に対応できる庁舎

### ○バナキュラーで市民が世界的に誇れる庁舎をめざす

沖縄の気候風土や敷地の環境、場所性を生かした個性ある新しい建築ボキャブラリーやシステムで組み立てられる魅力ある建築とする。屋上緑化とダブルルーフや壁面緑化のダブルスキンなどを採用し、設備負荷が小さい沖縄型エコ建築で美しい景観も作る。→市民が愛着をもち品格ある建築文化を示す庁舎

### ○沖縄や那覇のすばらしさを発信する庁舎をめざす

独特な歴史や文化をもつ沖縄や那覇を体感でき、さまざまな情報を手に入れられる観光案内所や展望室などの機能を付加する。→沖縄を発信する庁舎

### ○都市環境の再生のきっかけとなる庁舎をめざす

新庁舎を中心とし、県庁・開南小学校・国際通り・パレットくもじなどの周辺地域が親しみある公園のような都市環境となる事を願って、「那覇セントラルパーク」の提案をする。→地球環境に配慮した庁舎

## ■設計への市民参加の方法

本来公共施設は利用者である市民のためのものであるから、多くの市民の意見を聞き、新庁舎のビジョンをつくりあげ、設計を進める。

### ○沖縄型市民参加を求めて

かつて、沖縄では「シマ」と呼ばれるコミュニティの基本単位の中に「ゆいまーる」と呼ぶ共同参画システムがあって、公民館などの地元密着の施設がつけられた歴史があった。今回、この市庁舎を**CITY HALL**として、市民の多様な利用を第一に位置づけているので、最大限に市民の意見をくみとり、その利用を高めるための沖縄型市民参加の新しいシステムを構築する必要がある。

### ○ワークショップの方法と場

行政・議会・その他各種団体などの従来のオフィシャルな組織の人々の他、学識経験者が座長となるボランティアから構成された委員会のメンバー、また、自由に参加する一般市民などが集って、多様なワークショップを行う。ワークショップの場も会議室とは限らない。現庁舎のエントランスや前庭、地元利用者の居住地など議題の状況が把握しやすい場とし、インターネットも利用する。そこで出た意見はオープンな形で吸い上げ、まとめながら設計・建設・運用に反映する。今後、沖縄型市民参加をより検討する必要がある。

- 人に優しい庁舎 市民協働の場となる庁舎 市民サービス、事務能率の効率的な庁舎 暮らしを支える拠点となる庁舎 変化に対応できる庁舎
- 品格のある庁舎 地球環境に配慮した庁舎

